

二〇一九年度都市史学会大会（東京）プログラム

日時 二〇一九年二月一四日（土）・一五日（日）
会場 青山学院大学 青山キャンパス 14号館12階大会議室

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4丁目4番25号

アクセス 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線 表参道駅より徒歩5分、JR線・東急線・京王線 渋谷駅より徒歩15分

※アクセスマップは裏面参照。

参加費 会員 二、五〇〇円／非会員 三、〇〇〇円／学生・院生 一、〇〇〇円（両日共通）
大会実行委員会 都市史学会企画委員会

・12月14日（土）

13時00分～15時00分 研究発表 司会Ⅱ小島 見和（青山学院大学）

〔報告〕 応仁・文明の乱後の酒屋・土倉と「武家被官」についてⅡ酒匂 由記子（立命館大学）

〔報告〕 近世有馬温泉町の石垣を用いた都市形成の変遷についてⅡ中村 駿介（フリーランス）

〔報告〕 近世江戸の街路とジェンダー

―長谷川雪旦筆《江戸名所図会》挿画の研究Ⅱ安永 麻里絵、ガムゼ・サイギ（アムステルダム大学）

〔報告〕 横須賀中心市街地における防火建築帯及び防災建築街区の建設についてⅡ亀井 泰治（関東学院大学）

15時15分～16時15分 都市史学会総会（会員のみ）

16時30分～18時00分 《基調講演》ポリスとは何かⅡ桜井 万里子（東京大学名誉教授）

司会Ⅱ樺山 紘一（印刷博物館・館長）

18時30分～20時00分 懇親会 於 アイビーホール レストランフィリア

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷4-4-25

※会費制（追ってご連絡いたします）

・12月15日（日）

シンポジウム「歴史のなかの現代都市」 司会Ⅱ伊藤 毅（青山学院大学）

われわれがふだん生活し活動している拠点は多くの場合、現代の都市である。現代はつねに進行形として推移しているので、過去との連続／断絶がどのように起きているのかを明らかにすることは難しい。歴史的時代区分として古代、中世、近世、近代については多少の幅があるものの多くの研究者のあいだで一定の共通認識がすでに定着していると言つてよいが、近代と現代の境目や歴史全体のなかの現代という時代を特定する指標を明示することはきわめて困難である。今回の都市史学会の大会ではさまざまな時代や地域を専門とする研究者が一堂に会し、みずからの専門領域の研究を通して、現代都市を浮かび上がらせることが目標である。現代都市そのものを論ずるのではなく、それぞれの時代や地域に立脚して歴史のなかから現代都市を逆照射することを試みる。過去に存在した何らかの都市的要素のなかで現代都市に継承されているもの、あるいは断絶してしまったものを意識化することによって、われわれが現在日々体験しているにもかかわらず、よくわからない現代という時代、あるいは現代都市を考えるひとつのきっかけにしたい。

10時00分～10時15分 〔趣旨説明〕伊藤 毅（青山学院大学）

10時15分～11時00分 〔報告1〕北村 優季（日本古代史、青山学院大学）

11時10分～11時55分 〔報告2〕河原 温（西洋中世史、放送大学）

11時55分～13時00分 昼食

13時00分～13時45分 〔報告3〕桜井 英治（日本中世史、東京大学）

13時55分～14時40分 〔報告4〕中野 隆生（西洋近代史、学習院大学）

14時40分～15時00分 休憩

15時00分～15時45分 〔報告5〕妹尾 達彦（東洋史、中央大学）

15時45分～16時00分 〔コメント1〕池田 嘉郎（近現代ロシア史、東京大学）

16時00分～16時15分 〔コメント2〕北河 大次郎（土木史、文化庁）

16時30分～17時30分 討論

